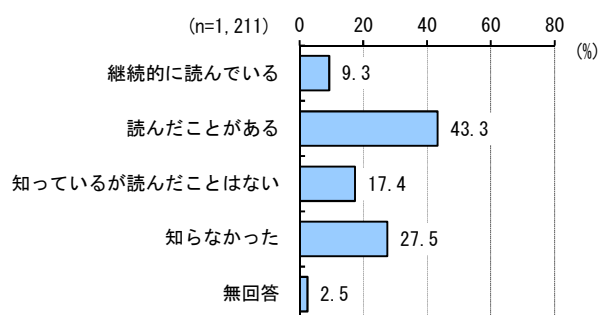


問27 丸亀市社会福祉協議会では、福祉についての情報提供や福祉への理解を深めていただくために、社協だより「かけはし」を年4回発行しています。読んだことがありますか。

(○は1つ)

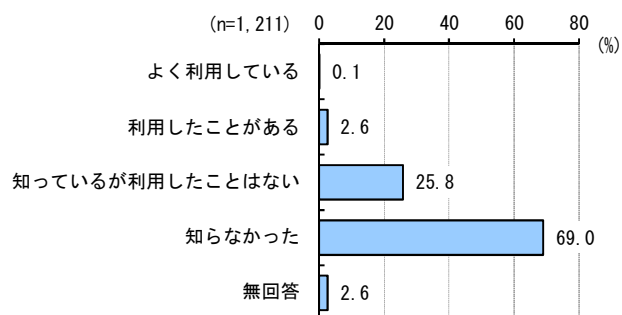
「読んだことがある」が43.3%で最も多く、次いで「知らなかった」27.5%、「知っているが読んだことはない」17.4%となっています。「継続的に読んでいる」は9.3%と1割程度となっています。



問28 丸亀市社会福祉協議会では、福祉についての情報提供や福祉への理解を深めていただくために、インターネットホームページを開設しています。利用したことがありますか。

(○は1つ)

「知らなかった」が69.0%と多数を占めています。「よく利用している」はごく少数ですが、これに「利用したことがある」「知っているが利用したことはない」を合わせた『社会福祉協議会のホームページを知っている人』は3割弱となっています。



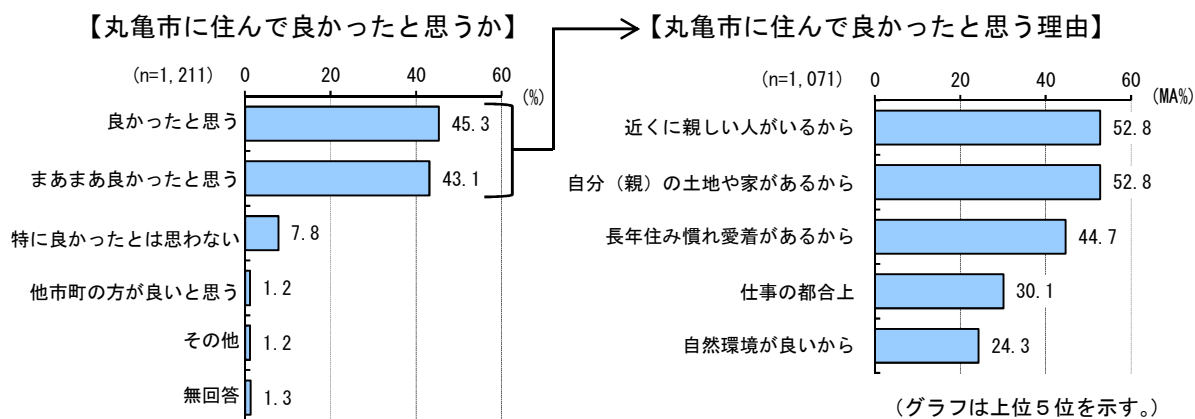
問30 あなたは、丸亀市に住んで良かったと思いますか。(○は1つ)

問30で「1. 良かったと思う」「2. まあまあ良かったと思う」を選んだ方におたずねします。

問30-1 丸亀市に住んでよかったと思う理由は何ですか。(○はあてはまるものすべて)

丸亀市に住んで「良かったと思う」と「まあまあ良かったと思う」を合わせると約9割と大多数を占め、丸亀市の居住評価は高いといえます。

丸亀市に住んで良かったと思う理由をみると、「近くに親しい人がいるから」と「自分(親)の土地や家があるから」が52.8%で最も多く、次いで「長年住み慣れ愛着があるから」44.7%となっています。



## 4. ふくし井戸端会議（住民座談会）結果概要

### （１）城北地区

主な福祉課題	自分たちでできること
買物に行く手段がない高齢者がいる。 食事・買物が不便。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 近所の人に声かけをして、車に乗せてあげる。</li> <li>● 近所で声かけして、乗り合いタクシーを利用する。</li> <li>● 買物代行をする。</li> <li>● 学校給食の高齢者版をつくって食事を提供する。</li> <li>● コミュニティに集合して食事を提供する。</li> <li>● 料理の持ち寄りで食事会をする。</li> <li>● 近所で、おすそわけをする。</li> </ul>
ひとり暮らしの高齢者や老々介護への支援。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域行事の際に声かけをする。</li> <li>● 高齢者にコミュニティへの参加をすすめる。</li> <li>● 高齢者同士の交流の場をつくる。</li> <li>● 訪問回数や会話の機会を増やし、必要としていることを聞いていくことを積み重ねる。</li> <li>● 定期的に個別訪問を行う。</li> <li>● 外出しない人のゴミ出しを時々してあげる。</li> <li>● 市の援助を理解していない方が多いので、福祉情報を提供する。</li> </ul>
子どもが安心して遊べる場所が少ない。 公園が暗くて怖い。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 遊休地を利用して遊び場にする。</li> <li>● 高齢者の居場所と子どもの遊び場が競合する場合、高齢者は子どもたちが学校にいる間は使い、放課後は子どもたちに開放するなどを検討する。</li> <li>● パトロールや防犯カメラの設置により、子どもの安全を確保する。</li> </ul>
障がい者や障がいに対する理解が不足している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 障がい者との関係づくりをする。（あいさつ、声かけ、地域の行事の際に声かけ）</li> <li>● 障がい者に何をしてほしいかを確認し、対処する。</li> <li>● 子どもの障がいを個性と受け止めて、よいところを伸ばしてあげることが大切。周りの人も認めてあげる。</li> <li>● 障がい者の立場に立って考える。</li> <li>● 障がいに対する研修、勉強会を開催する。</li> </ul>
地域のつき合いが少なくなり、他の人の事情がわかりにくくなってきている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● みんなで話せる場づくり、雑談ができる場づくりをする。</li> <li>● 空き家を利用して喫茶店（秋寅の館）などの場づくりをする。</li> <li>● みんなでカフェを運営する。</li> <li>● 学校の空き教室を活用して集まる場にする。</li> </ul>

## (2) 城西地区

主な福祉課題	自分たちでできること
高齢者の見守り体制が不十分。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ウォーキングや会った時に声をかけ、身体の様子も聞く。</li> <li>● まわりの高齢者に気をつけ、声をかける。</li> <li>● 認知症の方には、近所とのふれあいが重要。ふれあえる機会をもう少し持つようにする。</li> <li>● ポストの郵便物が溜まっていないか注意する。</li> </ul>
地域行事に参加する高齢者が減少している。地域でふれあう機会も減少している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 顔を見たら、とにかく声かけをする。</li> <li>● 戸別に地域行事を案内する。</li> <li>● 高齢者の興味のあるイベントを実施する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・お弁当の販売、手づくり品・植木・花などのバザーを定期的にする。</li> <li>・お食事会（昼食等）</li> <li>・お酒を楽しみ、話をする会</li> <li>・男性も参加できる料理教室</li> </ul> </li> <li>● ふれあいサロンへの参加を呼びかける。</li> <li>● 地域の皆が交流できる行事（祭り等）を企画する。</li> <li>● 地域行事に参加するメリットを考える（プレゼント、ポイントなど）。</li> <li>● 小学校の運動会に参加し、子どもたちと玉入れ等を行う。</li> <li>● 近隣に声かけして、外出（移動）を手伝う。</li> <li>● 外に出たがらない人に、こまめに声かけする。</li> </ul>
他人の子どもを叱る習慣がなくなった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 積極的に声をかけて子どもの名前を知る。顔なじみになる。</li> <li>● 町内の祭などで、子どもとふれあう。その中で叱ることもできる。</li> <li>● 叱る事ばかりでなく、ほめる事も必要。</li> </ul>
障がい者の支援の仕方がわからない。障がい者の居場所がわからない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 杖や車いすの人に道を空けたり、ドアをあけてあげる。車いす専用駐車スペースに車を置かない。</li> <li>● 自分から積極的に声をかける。</li> <li>● 施設等でのボランティアをする。</li> <li>● 「何かお手伝いありますか？」と直接たずねる。</li> <li>● コミュニティなどで開く講習会に参加して、障がい者や障がいを理解する。</li> </ul>
マンション入居者は自治会に入らない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自治会に加入すれば、コミュニティー利用が無料と情報提供する。</li> <li>● マンション入居前に、入居者へ自治会説明の機会を持つ。</li> <li>● 建設業者から自治会加入をすすめてもらう。</li> <li>● 負担を減らすため、自治会会長の当番制を考える。</li> <li>● 文化祭や夏まつり等でマンション入居者と交流する。</li> <li>● あいさつやコミュニケーションを図り、顔見知りになる。</li> </ul>

## (3) 城乾地区

主な福祉課題	自分たちでできること
ひとり暮らしの方の動向がつかめない。家庭の状況がわからない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 向う三軒両隣りの人が声をかけ合って、状況を共有する。</li> <li>● 隣近所でひとり暮らしの方がいたら、あいさつ等声かけをする。いつもと違う場合は、市や駅前交番に連絡する。</li> <li>● 外出時に一声かけて、出かけるようにする。</li> <li>● ご近所見守り隊をつくる。隣組を復活する。</li> <li>● 民生委員、福祉協力員が定期的に訪問する。</li> <li>● 防犯教室や各種講座など、ひとり暮らしの方が参加できる行事を実施する。</li> <li>● 月1回、集会の案内に行き、状況を聞く。(幸町さわやか会)</li> <li>● ひとり暮らしの方の自治会への参加を促進する。</li> <li>● 広報誌を自治会で配り、配布時に声かけし、顔を合わせる。</li> </ul>
病院や買物に行く移動手段がない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● お年寄りに希望を聞いて、買ってきてあげる。</li> <li>● 地域内の店に協力依頼し、配達してもらうシステムをつくる。</li> </ul>
高齢者が地域の会合や地域の方と積極的に交わらない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 各地区で民協・福祉ママ・福祉協力員で話し合って、対策をたてる。</li> <li>● 小地域のネットワーク等の研究会を開く。</li> <li>● サロンに、ひとり暮らしや歩いて出られない高齢者を誘い合わせる。</li> <li>● 町内会のレクリエーションや夏休みのラジオ体操に出てこない人は特に要注意なので、ふだんから気に掛ける。</li> </ul>
世代間のふれあいが少ない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 施設と幼・保・小、地域の交流会を企画する。</li> <li>● 空き家を交流の場に活用する。</li> <li>● 下校時の防犯パトロール隊と小学生のみんなで、日頃の感謝も含めて交流会を開催する。</li> <li>● 地域の行事の中に世代交流の場を設定する。</li> <li>● 子どもと大人と一緒に遊べる催物をする。</li> <li>● 藤井学園や村上学園の子どもたち、小学生の子どもたちと地域の皆で清掃活動を一緒にして、その後の交流イベントをつくる。</li> <li>● 祭等の地域の行事に、子どもたちを積極的に参加させる。</li> <li>● 三世代ふれあい会を実施する。(スポーツ大会)</li> <li>● 子ども会活動を推進する。(四季の行事)</li> </ul>
障がい者の情報が入ってこない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 声かけ、あいさつをする。</li> <li>● コミュニティで気軽に集える場所をつくる。</li> <li>● 地域で障がいについての勉強会を行う。</li> <li>● 情報が入れば、家族や地域へ情報提供していく。</li> </ul>
避難支援をする者がいない(高齢者が多い)。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 救助が来るまで3日から一週間、自分で身を守る意識を高める。備品をそろえる。(自助)</li> <li>● 避難経路をみんなで考える。</li> <li>● 向こう三軒両隣りが安否確認(見守り)を行う。</li> </ul>

## (4) 城坤地区

主な福祉課題	自分たちでできること
<p>何に困っているかわからない。 困っている人は自治会に入っていない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● まずは、声かけから！！「おはよう」「こんばんは」。</li> <li>● 気やすく話せる関係づくりをする。</li> <li>● 情熱・誠意をもって接する機会を増やす。</li> <li>● 転居して来たら早急に訪問し、状況を知る。</li> <li>● ふだんからの近所づきあいで、気安く話せる関係をつくる。</li> <li>● 人と人とのつながりを密にしていく。</li> </ul>
<p>ちょっとした生活支援が必要。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● お手伝いできる人を、自治会内でオープンにしておく。</li> <li>● 人に頼る、逆に自分のできる事で返すという人間関係をつくる。</li> <li>● 小単位ごとに、おたすけネットをつくる（安価でも有料）。</li> <li>● 自分の買物のついでに、近所の困っている人の物も買ってきてあげる。</li> <li>● おたのみ箱を各所へ設置する（回収は自治会）。</li> <li>● おたすけネットワークやシルバー人材センターを利用する。</li> <li>● ゴミ出しへの支援をする。</li> </ul>
<p>本人の状態を理解し、独居高齢者の見守りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 見守り・声かけ等に自治会全体でとりくむ。</li> <li>● 近所づきあいを濃くする（常に関わりをもつ）。</li> <li>● 姿が見えない時は、洗濯物や家の明かりなどを見て在宅確認をする。</li> <li>● 自分達から声をかける。声かけしやすい雰囲気をつくる。</li> <li>● 災害時に誰に言いに行くかを決めておく。</li> <li>● 日頃、誰と話しているか調べておく（友人関係）。</li> </ul>
<p>いじめ等、問題行動のある子どもへの対応が困る。親の子育てへの意識が低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 会報誌・インターネット等で不審者等の情報を共有する。</li> <li>● コミュニティで見守り隊の活動をする。</li> <li>● ボランティア（無償）で勉強を教えてもらう大学生等を確保する。</li> </ul>
<p>ひきこもり相談先がわからない。 障がい者の方への支援方法がわからない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 難聴者へのコミュニケーションを配慮する。</li> <li>● 身構えず、自然な声かけ、あいさつをする。</li> <li>● 障がい者を理解する。避けるようにしない。</li> <li>● ちょっとした手助け、声かけをする。</li> <li>● 相談先を周知する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ひきこもりは「ひまわりセンター」へ。</li> <li>・相談先の情報一覧（便利帳）を作成する。</li> </ul> </li> </ul>
<p>防災訓練の周知ができていない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 防災訓練の周知文をコミュニティで作り、各団体に配ってもらう。</li> <li>● 継続して防災訓練を行い、定着化させる。</li> <li>● 第2回防災訓練秋号の新聞で大きくアピール。体験談をのせて参加意欲をかき立たせる。</li> </ul>
<p>ゴミのポイ捨て、ペットのフンの後始末等のマナーが悪い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● きれいなどころには捨てにくいことから、一回すべてきれいにし、常にきれいに保つ。</li> <li>● 注意や声かけをする。</li> <li>● ペットの糞対策として、草むらをつくらない。</li> </ul>

## (5) 城南地区

主な福祉課題	自分たちでできること
地域の高齢者の把握、見守り方法。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 何かあった時に連絡する相手がわかるようにしておく。</li> <li>● 地域ごとにマップをつくり、情報を共有する。</li> <li>● 高齢者同士のつながり（ネットワーク）を調べて表にする。</li> <li>● 近所で声かけをする。</li> <li>● 老人クラブと協力して、行事に誘う。</li> <li>● 老人クラブへの参加を呼びかける（参加呼びかけの際に、高齢者の個々の実態を把握する）。</li> <li>● ふれあいいきいきサロン活動を活発に行う。</li> <li>● 地域の行事（お祭り・運動会）等を通して、親睦を深める。</li> <li>● ひきこもり老人の安否確認を複数のボランティアで行う。</li> </ul>
移動手段の確保。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域から買物バスを出す。</li> <li>● スーパーから、団地の集会場などへ車を出してもらおうよう呼びかける。</li> <li>● シルバー人材センターに代行を頼む。</li> <li>● 御用聞きができるボランティアをつくる。</li> <li>● 誰かが車を出して、相乗りをする。</li> <li>● コミュニティでたすけあい事業をする（有料）。</li> </ul>
地域の子どもの見守り。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 子ども会や育成会の活動に参加して、子どもとの信頼関係を構築する。</li> <li>● 学校の行事に参加して顔を覚えてもらう。</li> <li>● 地域の行事を通じて、子どもと仲良くする。「知っているおっちゃん、おばちゃん」になる。</li> <li>● まず、子どもの親と知りあいになる。</li> <li>● 安全パトロールなどを通じて、顔見知りになる。</li> <li>● 登下校時に、通学路の人は見守る。</li> <li>● 子どもが通る時間帯に、ゴミ出しや掃き掃除をする。</li> <li>● 地域のおとなの目を増やして犯罪が起こりにくい環境をつくる。（おとながいたら不審者が減る。）</li> <li>● 不審者メールの登録範囲を拡大する。</li> <li>● 一人での声かけが不審がられるのなら、複数の人で声かけして、顔なじみになる。</li> </ul>
障がい者の情報が無い。民生委員にも情報が入ってこない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自分たちで頑張っていることを見守っていく。気にかけていく。</li> <li>● 何か助けを求められれば、手助けをする。</li> <li>● 障がい者の家族を支援・手助けする。</li> <li>● 障がいについて理解していく。</li> </ul>
自治会に入らない人が多い。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 新しく自治会をつくる</li> <li>● 自治会加入のメリットを周知して、加入を促進する。</li> <li>● 未加入世帯へアンケートを実施し、加入しない理由を探る。</li> <li>● 自治会から、加入のはたらきかけをする。</li> <li>● 未加入の新しい世帯と交流する。</li> <li>● 老人会・子ども会などコミュニティ活動とのつながりをもつ。</li> </ul>



## (6) 土器地区

主な福祉課題	自分たちでできること
ひとり暮らしの人の買物が困難。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 生協など、玄関まで配達してくれるところの情報を知らせる。</li> <li>● いきいきサロンと移動スーパー（買物支援事業）を一緒に実施する。</li> <li>● ボランティアで買物支援をする。</li> <li>● タクシーに相乗りして、買物に出かける。</li> <li>● 移動販売の業者の手配を市へ要望する。</li> </ul>
買物等、ちょっとした日常生活が困難（ゴミ出し、照明器の取り換え、草刈りなど）	<ul style="list-style-type: none"> <li>● お互いさまの関係づくりを進める。</li> <li>● ゴミ出し時に声かけ・見守りをする。</li> <li>● シルバー人材センターを活用する。</li> <li>● 民生委員が見守り時に福祉情報を提供する。</li> <li>● ゴミ出しについて、自治会内で取り決めをする。</li> <li>● 高齢者の自治会費等を免除する。</li> </ul>
子どもが安心して遊べる場所がない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 高齢者のサロンを子どもの遊び場に利用する。</li> <li>● コミュニティセンターで子育てサロンをする。</li> <li>● ひとり暮らしの高齢者宅で、子どもたちが一緒に遊べるようにする。</li> <li>● 子ども会活動を活発にする。</li> <li>● 自治会館等を利用する。</li> <li>● 子どもをもつ家庭・親同士の話し合いができる場をつくり、つながりを強める。</li> </ul>
障がい者等の情報が少なく、支援が困難。災害時に障がい者からは具体的な支援を頼みづらい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 情報をオープンにし、助け合う関係を築く。</li> <li>● 障がい者が助けを求めやすい環境をつくる。</li> <li>● 民生委員や自治会長が障がい者の情報を収集して、見守りや声かけをする。</li> <li>● その人なりに頑張っている障がい者を理解する。</li> </ul>
死亡事故・防犯。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 青パト巡回を強化する。</li> <li>● 市や警察へ要望する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事故多発場所をカラー舗装にする。標識を立てる。信号機の調整をする。</li> <li>・ 街灯を増やす。</li> </ul> </li> </ul>

## (7) 飯野地区

主な福祉課題	自分たちでできること
交通が不便、移動手段がない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● コミュニティでタクシーを走らせる。そのため、ボランティアで運転手をする。</li> <li>● コミュニティで移動用バスを買ってもらうため、資金を出資する。企業に出資を呼び掛ける。ボランティアでバスの運転手をする。</li> <li>● 近隣の人で乗り合わせて移動する。</li> <li>● 家に来てくれるサービス（買物・医療）について、知っている情報を他の人に教える。</li> </ul>
個人情報保護意識が強いので、家の中の状況がよくわからない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 盆踊り、日舞などで交流を深める。</li> <li>● いきいきサロン、老人会を充実する。ふれあいサロンを利用する。</li> <li>● おはぎ等をつくり、高齢者に配る。</li> <li>● 隣近所のつきあいを大切にする。</li> <li>● ヘルパーや介護事業所から情報を得る。</li> <li>● 友愛訪問を通じて、家族から情報を得る。</li> </ul>
ひとり暮らしの高齢者が増えており、急病時等にどうするか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● できるだけ多く、連絡先を決めておく。親族の連絡先を書いておく。</li> <li>● 持病を明示し、持病の薬の置き場を決める。</li> <li>● 緊急通報装置を設置する。</li> <li>● 近所の人で1日1回の声かけをする。ふだんから気にかけておく。</li> <li>● 新聞や牛乳がたまってないかチェックする。</li> <li>● 時には、一諸に話し合いをしてあげる。</li> </ul>
子どもの見守り。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 子どもの地域交流イベントを行う。</li> <li>● 祭り・イベントなどの行事を通して、子どもとのつながりをもつ。</li> <li>● 通学路に防犯カメラを設置する。</li> </ul>
障がい者の情報が少ない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 飯野町パラリンピックをひらく。</li> <li>● 障がい者協会の存在をPRする。</li> <li>● 障がい者自身の生活体験を話してもらう機会を（講演会）をもつ。障がい者理解ができるよう、勉強会をもつ。</li> <li>● コミュニティで、当事者向けの講演会を開く。</li> <li>● 精神障害家族会に参加する。</li> <li>● 健常者と同じように接する（配慮する）。障がい者の立場で考える。</li> </ul>
自治会に入るメリットを増やし、自治会に入りやすいように考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自治会加入のメリットをPRする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域住民とのふれあいがもてる、増える。・ 知人がふえる。</li> <li>・ 安否確認がしやすい。</li> <li>・ 子どもが大きくなっても地域の交流がもてる。</li> <li>・ 地域への理解が深まる。地域のことがわかる。</li> <li>・ 自分の意見を、地域の中で言える場所がある。</li> <li>・ いろんなことに地域の人が協力している。</li> </ul> </li> </ul>
スーパーが少なく買物が不便。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 車を運転できる人に連れて行ってもらう。</li> <li>● 近所で声かけして、一緒に買物へ行く。</li> <li>● 移動スーパーを利用する。</li> <li>● 生協を利用する。</li> <li>● たすけあいサービスをする。</li> </ul>



## (8) 川西地区

主な福祉課題	自分たちでできること
<p>ひとり暮らしなどで倒れたとき、どうすればいいか。 病院へ入れないため、仕方なく家庭で見ている。 高齢者の人数が増える と見回りが難しい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 機器を整備する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 緊急通報装置</li> <li>・ 見守り携帯シルバーホン</li> <li>あんしん等</li> </ul> </li> <li>● 見守りを行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 支援者が声を掛けて、見守る。</li> <li>・ 自治会で見回り（隣組）をする人を決める。</li> <li>・ 夜、毎晩電気が付いているか確認する。</li> <li>・ 民生委員が定期的に訪問する。（10日/月）</li> <li>・ 散歩・買物の時に見守りをする。（サイン・旗など）</li> <li>・ 近所で見守りをする。</li> <li>・ 月2回、弁当を配達して、安否確認をする。</li> <li>・ 企業に見守りをしてもらう。（新聞屋さん）</li> </ul> </li> <li>● 核家族を解消するため、同居をすすめる。</li> <li>● 情報を整備する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ひとり暮らしの人の緊急連絡一覧表を作成する。</li> <li>・ 民生委員が、常に地域の高齢者の情報を収集する。</li> </ul> </li> <li>● 倒れた時に、即、自分で緊急時ブザーを押せる状況にしておく。</li> <li>● 民生委員・福祉ママ・自治会が横のつながりをもつ。</li> <li>● 鍵等を預かっておく。いざという時のために、鍵を預ける。</li> </ul>
<p>ひとり暮らし高齢者への支援。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 企業会費で、コミュニティに電話受付をおく</li> <li>● いろんなところをバリアフリーにする。</li> <li>● 身につける緊急通報スイッチをもつ。</li> <li>● 元気な高齢者で移動の支援をする（車の運転など）。</li> <li>● 高齢者でパトロール隊をつくる。</li> <li>● 空き店舗やコミュニティなどで、高齢者のカフェをつくる。</li> <li>● いきいきサロンを活用して、居場所をつくる。</li> <li>● 自治会でお互いに安否確認をする。</li> <li>● ひとり暮らしの人を自治会で把握し、お互いに声かけあう。</li> <li>● 犬の散歩のついでに、地域の見守りをする。</li> </ul>
<p>子どもが外で遊ばなくなっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 子どもが遊ぶ場所をつくる。</li> <li>● コミュニティで健全育成事業（ジャガイモ、田植えなど）を行う。</li> <li>● コミュニティの祭りを開催する。</li> </ul>
<p>障害者との接し方が難しい。コミュニケーションがとれているかどうかかわからない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 障がい者の話を、しっかり聞く。</li> <li>● 訪問して話を聞く。</li> <li>● スーパーなどで、困っている時、声かけする。</li> <li>● 身体障がい者が集まる場（サロン）をつくる。</li> <li>● 地域の行事に参加してもらう。</li> </ul>
<p>空き家が増加している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 民生委員等の巡回見守りで、空き家の発見につなげる。</li> <li>● 地域で空き家を把握し、危険家屋を行政に連絡する。</li> <li>● 空き家を借り上げて憩いの場とする。空き家バンクに登録する。</li> </ul>
<p>自治会加入率低くなっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自治会に入るメリットを考え、入りやすい自治会をつくる。</li> <li>● ごみ置き場などの設置を、自治会を通して許可するようにしてもらう。行政から権限をもらう。</li> <li>● 理解を得るための説明をし、根気よく仲間づくりを行う。</li> </ul>

(9) 郡家地区

主な福祉課題	自分たちでできること
<p>車に乗れなくなった時、外出できなくなる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 近所で声かけをし、車を出してあげる。</li> <li>● 仲間でタクシーの相乗りをする。</li> <li>● 自治会内で手助けできる方法を検討する。</li> <li>● 近所の人が自分の買物の時に注文を聞いて、買物をしてあげる。近所で買物代行をする。</li> <li>● 定期的に車を出すようにする（買物用バス）。</li> <li>● 移動販売を活用する。便利になるよう要望する。</li> <li>● コミュニティバスに乗って、現状を確認し、要望する。</li> <li>● せめて週1回位コミュニティへ注文品を持って来てもらえるように要望する。</li> <li>● 高齢者の相談にのり、問題解決ができる人の配置を要望する。</li> </ul>
<p>高齢者の活躍できる場所や居場所が少ない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 高齢者の居場所に自治会館をつかう（歩いていける距離）。</li> <li>● 昔ながらの伝承をつなげていく機会をつくる</li> <li>● ふれあいサロンの場所を、より身近なところで開催する。</li> <li>● 地域の老人会に勧誘する（参加してもらう）。</li> <li>● 高齢者に地元の歴史を教えてもらう。（歴史探訪）</li> <li>● 高齢者の得意な種目をみんなに伝えるようにする。</li> </ul>
<p>他人の子どもに口出しをしにくい。子どもへの注意の仕方がむずかしい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 時間・場所を決めて、大人・子ども（小・中）と一緒に、朝のあいさつ運動をする。</li> <li>● 地域行事（祭等）へ積極的に参加し、子どもとふれ合う時間をつくる。</li> <li>● 行事・イベントで、子どもへ声かけをする。</li> <li>● 地域のイベントに小・中学校の部活動を巻き込む。</li> <li>● 安全パトロールなどで子どもと親しくなる。</li> <li>● 子どもと大人がチームを組んで、夜回りパトロールをする。</li> <li>● 郡家の子どもが大切だからこそ、きちんと注意をするよう大人の意識をかえる。</li> <li>● 子どもに注意し、親にも同じ内容を伝える</li> <li>● せめて近所にどんな子（親）がいるかを知る。</li> </ul>
<p>障害者の情報が入ってこない、障害を抱えた人がどこに住んでいるのかわからない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 障がい者が助けを求めやすい環境づくり関係づくりをする。</li> <li>● 福祉協力員を中心に情報収集する。</li> <li>● 「何かあったら言ってくださいよ」と声かけするなど、障がい者が助けを求めやすい環境づくりに努める。</li> <li>● 障がい者に積極的に交流の場に出してもらう。</li> <li>● 障がい者との壁を、自分たちから壊していく。</li> </ul>
<p>団地が増え、地元の人と団地の交流が課題。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 団地と地元の（長）が交流、話をする機会（場）をつくる。</li> <li>● 自治会へ入りやすい体制を作ってもらえるよう行政に働きかける。</li> </ul>
<p>道路が狭いのに交通量が多い。道路事情が悪い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 交通ルールを守る（スピード守る ゆずり合い）。</li> <li>● 通勤は公共交通機関を利用する。</li> <li>● コミュニティの活動に、なるべく徒歩や自転車に参加する。</li> <li>● 反射タスキをつけて歩くようにする。</li> <li>● 交通安全協会から配布用の反射板をもらう。</li> </ul>